

伝統的建造物群の景観維持を目的とした具体的な活用方法の策定

～呉市御手洗地区を題材として～

広島女学院大学 人間生活学部
生活デザイン学科 鍵山 昌信
参加学生：生活デザイン学科
3年次2名、2年次2名

1. 事業目的

1994年に重要伝統建造物群保存地区に選定された呉市豊町御手洗では2023年3月末に広島市と結ばれるバス路線「とびしまライナー」が廃止になるほど、利用者である地域人口の過疎化が急速に進んでいる。住民なき町は文化財の健全な維持管理の衰退と同意であり、早急に関係人口の回復に対する特効薬的施策を構築する必要がある。

人が離れ生活が無くなると、空き家は増え続ける。とはいえ、生活住民では「活用する」ことのイメージが湧きにくい上に、特に重要建造物群保存地区や有形登録文化財などに選定されていると、修繕に補助金はでるものの、外観を大胆に変更できない等の建築条件があるため、活用されたことが表面化し難い。本活動を通して、少しでも多くの地域住民に空き家の活用方法を共有していく必要があると考える。

本事業は、現在空き家の場所を活用して、新たな地域資源を活かしつつ、新たな働き手の確保・新たなコミュニティ形成につながる場に生まれ変わらせ、人口流出に歯止めをかけるモデルケースを構築するための活動である。

2. 実施方針

本活動は、現地で空き家を活用しながら観光事業を行っている合同会社よーそろ代表・井上氏と協働し、実施の空き家を題材にして、どのようにして地域に根差した新たな事業を生み出すかを提案側として関わっていく。参加学生は、まずリアルタイムに直接地域住民から現状の問題点や新たな場づくりの展望などをヒアリングしていき、その内容と建築士課程で学んだ知識を活用し、現況調査～活用計画立案～地域や事業者プレゼン～改修実行（できれば工事中のあるタイミングでワークショップ的に施工にも携わる）まで携わる。

また、広島には建築やインテリアを学ぶ学科をもつ大学・高専・専門学校がたくさん存在するが、この活動をより横連携させることで、同じ問題意識をもつ学生同士の情報交換や体験共有の場へと昇華させていくことを考える。延いては、学生間で共有したその体験が、同じ問題を抱える各地域へ波及し、地域力増進の強力な助っ人となり得る未来を創りたい。

3. 活動内容

● 7/21(日) : 空き家の現状調査 (鞆田邸管理者より)

- ・ 空き家 (鞆田邸) 所有者から内部の案内をして頂く
- ・ 現状の周辺の空き家状況や求められている活用ニーズについて、ヒアリング



● 7/21(日) : 今回活用対象の計画打合せ (合同会社よーそろより)

- ・ 活用対象となる空き家建屋を案内
- ・ どのように活用したいかイメージを聞き取り、方針打合せ



⇒地産の果実のB級品が廃棄されており、それを加工して販売できる「ジェラート工房」に活用(転用)することが決定

- ・ スケジュールの確認
- ・ 重要伝統建造物群保存地区での制約や規程などを確認

⇒地区内での外観操作は原則許されていないが、店舗として活用する祭の新しい外観デザインがどこまでOKか、後に呉市に提案・協議を予定する

- ・ 立案作業 (計画図の作成) に着手

● 8/18(日) : 建物の一部解体

- ・ 9月の建物補強計画立案の初回打合せのために天井を一部解体
- ・ 見えていなかった構造材サイズ等を実測調査



●9/2(月)：構造設計者との建物調査

- ・協力構造設計者：堀江建築事務所 堀江聡氏
- ・伝統工法（在来軸組工法）の木造家屋を改修する際の設計上の留意点などの項目をヒアリング
- ・現時点での改修内容で必要な補強方法・補強箇所を確認
⇒情報を持って帰り整理、改修計画内容にフィードバック
- ・補強改修計画立案の依頼
(スケジュールの都合上 12 月作業になりそう)



●9/17(火)：呉市文化振興課と外観デザインについて協議
(荒平氏、近藤氏)

- ・立案した外観デザインを図面とパースで説明
学生作成の答申図面は資料-1 別添の通り
- ・重要伝統建造物群保存地区内でOKかどうかを審議に入る
(後日回答待ち)

●10/21(月)呉市からの質疑応答

- ・その他の作業は上記回答待ちのため一旦停滞

●11/11(月)：別件の空き家改修案件の手伝い【サウナ】

- ・御手洗地区で 2024 年 5 月に本研究室から提案していた「新地鼻エリア開発デザイン」(資料-2 別添)の別件の空き家活用案件<サウナ新地鼻>の協力要請があり、漆喰塗作業の手伝いに伺う
(以降、案件別に【サウナ】【ジェラート】で仕分ける)



●11/26(火)：呉市文化振興課より連絡【ジェラート】

- ・外観デザインのOKを承認
- ・見積用／構造補強立案用に図面のまとめ作業に入る

●12/26：構造補強計画を立案（資料-3 別添）【ジェラート】

- ・重伝建地区の景観規制に向けた課題を整理し専門家へヒアリング
 - ・自分たちの書いた意匠図を見せ外観を極力変えないよう協議を重ねた。
- 堀江建築設計事務所 代表 堀江聡さん（一級建築士第 362090 号）

●1/14(土)：ジェラート工房の床板解体【サウナ】

- ・ジェラート工房の床は土間仕上げにするため、床板は解体
→サウナの外堀に再利用するために仕分けをしておく。

●1/21(土)：漆喰塗作業の最終仕上り状況確認【サウナ】

- ・漆喰箇所およびそれ以外も含め、綺麗に仕上がっていた。



●2/1(土)：ウッドデッキ、堀用の板材を塗装の手伝い【サウナ】

- ・ウッドデッキに使う板材に塗る塗装は、御手洗の景観色の一つから「ウォルナット」を提案し、浸透性木材保護塗料の塗装を解体中のジェラート工房建物内にて実施する。応援で同大学生生活デザイン学科2年生も2名参加。



●2/21(金)：各所仕上り状況確認【サウナ】

- ・2/1 に塗装したウッドデッキ、堀の仕上がり状況確認



- ・ジェラート工房も2月半ばからまずは外観（景観）に関わる工事が始まる／瓦修繕と構造壁の設置状況の確認【ジェラート】



サウナは2/末にオープンした。2月初からジェラート工房の工事に入ったが本事業年度内には終了しなかったため、3月末に重伝建の景観に適合の外観の確認を呉市に受け、引き続き内部の工事へと入る予定。

4. 事業実施による成果・効果

今回の事業を通して以下のような効果が得られた。

- ①大学内では現実味の薄い「空き家」「高齢化」などの社会問題とリアルに直面し、始まりと終わりを比べると明らかに学生の意識変化が窺えた。
- ②学生が中心となり活用案を立案・改修作業への参画をすることで、文化的価値のある地域への若者の興味・関心を向上させ、地域住人や企業との関りが持てた。建築の専門的な見解や規程にも触れることができた。
- ③特に地域住人の人には作業中も多く話掛けてくださり、これからもどんどん積極的に関わってほしいとの声を頂いた。
- ④2/21(金)に広島大学の田中貴宏教授率いる建築学生8名にも案内する機会を設け、同じ年代同士、また都市計画の観点から課題やこれからの活用方法などの意見交換ができた。
- ⑤本事業とは一旦切り離れられるが、引き続き「ジェラート工房のオープン」に向けて地域に入り、よーそろや重伝建を考える会と伴走する。